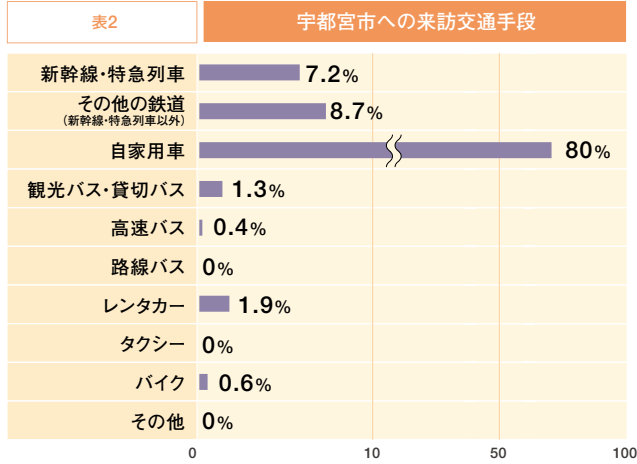




明治35(1902)年に落成した
宮造りの二代目JR宇都宮駅
「絵葉書が映す下野の明治・大正・昭和」
／随想舎より



JR Utsunomiya -Station

- 1／東北新幹線はやぶさは、国内最速320キロで運行を始め、東京―新青森間の所要時間が3時間を切ります
- 2／JRの通勤形電車としては標準的な、片側4箇所に客用ドアを設けた20 m車体を有します



特集/
鉄道と宇都宮市

“鉄道が創る 宮の未来” これから 鉄道の役割を、 駅長に聞く



宇都宮市中心部には、JR宇都宮駅と東武宇都宮駅の2つの駅があり、いずれも地域の足として、また市外県外と宇都宮を結ぶ公共交通として、重要な役割を果たしています。特に今後の観光を考える時、鉄道は大きな力となるでしょう。そこで今回の特集では、宇都宮市の観光の状況を見るときともに、それぞれの駅長に話をお聞きました。

入込客数の微減と 宿泊者数の増加

宇都宮市が毎年発表している「宇都宮市観光動態調査」は、市の観光を考える際の基本資料の一つです
まず表1「宇都宮市入込客数等年別一覧表」を見てください。これは、平成17年から23年にかけての入込客数と宿泊者数の統計です。

これを見ると、平成23年はいくぶん入込客数が減っていますが、宿泊者数は逆に増えています。約13万人の増加は、決して少ない数字ではありません。

平成24年の調査結果はまだ出ていませんが、いずれも増えると予想されています。
平成23年は、東日本大震災の年であり、

主な交通手段は クルマだが鉄道も重要

では、宇都宮市にはどのような交通手段で来訪しているのでしょうか。

調査報告によれば、表2のとおり、そのほとんどは自家用車となっています。別の部分を参照すると、宇都宮市への入込客

宇都宮市のイメージは、 やはり「餃子」

来訪の目的については「餃子」が55.6%と最も高くなっており、「餃子のまち宇都宮」が市外でも定着していることが、はっきり分かります。次いで「ショッピング」46.5%、「まちなか散策」26.9%となっていますが、これらは近隣市町村からのものだけではなく、飲食目的の来訪も25.2%と高い割合です。調査報告書では「都市型の観光を目的に来訪する人が多くになっている」と記しています。

その一方で、本市に抱くイメージでは、「餃子のまち」95.7%、「近隣に有名な観光地や温泉地があるまち」51.1%が目立ちます。また「市内移動のための公共交通機関が少ない」という回答が45.2%あり、今後の課題となっています。

とはいえ「今後、もしくは再度行ってみたいまち」というイメージが44.6%ありますから、街のポテンシャルは決して低くないと思われます。

こうした現状を踏まえると、櫻井駅長や加藤駅長の観光への取り組みが理解しやすいのではないのでしょうか。

宇都宮市の魅力を把握する一方で、鉄道が今後果たすべき役割についても、お二人ともしっかりしたビジョンを持つておられます。そのビジョンを今後のまちづくりに活かすことが、これからの宇都宮市の課題の一つとなるでしょう。



開業したばかりの東武宇都宮駅前
「絵葉書が映す下野の明治・大正・昭和」
／随想舎より

TOBU Utsunomiya -Station

- 3／東京と日光・鬼怒川方面をつなぐ特急用100型電車「スペーシア」
- 4／全国でも珍しい展望列車634型「スカイツリートレイン」



表1	宇都宮市入込客数等年別一覧表	
年	入込客数	宿泊者数
平成17年	13,595,300	1,028,254
平成18年	13,202,700	977,687
平成19年	13,208,700	1,011,698
平成20年	13,837,300	1,073,194
平成21年	13,879,000	1,017,860
平成22年	13,530,700	1,077,209
平成23年	12,740,500	1,204,264

※平成19年3月31日河内町、上河内町と合併

単位：人
2



来年度に烏山線導入が決定しているEV車両



JR宇都宮駅
櫻井 実 駅長

「地域に生きるがコンセプトです」

県都・宇都宮市の顔として

JR宇都宮駅が開設されたのは、明治の初期、日本が国を挙げて近代化にひた走っている時代でした。東北本線の開通と宇都宮駅の開設が、その後の栃木県経済に大きな役割を果たしました。そんなJR宇都宮駅の歴史と現在、これからについて、櫻井実駅長にうかがいました。

戦前は軍事利用が大きな役割

現在のJR宇都宮駅が誕生したのは、明治18（1885）年のことです。
当時の宇都宮市は、前年に栃木県の県都となったばかりでした。
明治維新の後、政府は日本に鉄道網を設置することを決定、まず新橋―横浜間が明治5（1872）年に開業したことは、歴史の授業にも登場します。
東北本線の第一期工事は明治16（1883）年、上野―熊谷間がまず開通しました。
「現在ではまっすぐに北へ伸びているのが当然のことのように思われますが、実は当時、両毛地区を経由するという案も、あったそうです」と櫻井駅長は話します。
大宮から足利方面を回り宇都宮、東北方面へ伸びる経路が実現していれば、栃木県における経済や市民生活も、現在とは

まったく違っていたと思われますが、紆余曲折の末現在のルートに落ち着いて、明治18年の開業を迎えました。
「宇都宮の中心部は二荒山神社周辺なのですが、当時は街の真ん中に駅を作ることに対する反対もあり、田川を渡って少し離れた場所が選ばれました。今の当駅周辺は、当時は湿地帯だったそうです」

現在では「あるのが当たり前」である大通りや宮の橋は、駅ができてから作られたとのこと。公共交通の整備により、街の形が変貌して行く良い例でしょう。
「当時は、1日2往復程度でした。鉄道の役割は昔も今も、人や物を安全確実に輸送することですが、戦前は軍事的な役割が大きかったようです。宇都宮にも大きな師団がありましたから」

「奇跡の復興」から現在まで

北関東の中核都市の一つとして、経済面でも重要なポジションにあります。
このように宇都宮の街を分析する櫻井駅長は、現在の宇都宮駅を「通勤駅、ビジネス駅の要素が強い」と見ています。
「これは、宇都宮という街の性格でもあると思うのですが、観光面ではまだまだ伸びる要素がありますね」
宇都宮市も、近年は観光を施策の柱としています。

「私どもも、そのお手伝いをさせていたきたいと考えています。行政と民間、地元と私どもとが、これまで以上に密接な連携をとりながらやっていくことが、重要でしょう」

「宇都宮のすばらしさを伝えるお手伝いを」

今後は「地域に生きる」がコンセプト——そう話す櫻井駅長。「地域が元氣にならないと、私どもも元氣になりませんから」と笑顔を見せます。

「JRのこれまでの経験から、宇都宮市にもさまざまなお手伝いができると 생각합니다。もちろん、JRとしては、安全安心の運行は大前提。毎日を、決して事故を起こしてはいけないという決意で業務を行なっています。また新しい技術開発と、現在の技術の継承も責務です」

新しい技術というと「新幹線のスピードアップ」がすぐに思い浮かびますが、JRの技術は多岐にわたっています。

来年、烏山線にEV車両が導入される

その役割が大きく変わったのは、戦後のこと。鉄道はまず復興のために無くしてはならない存在となりました。

「戦後20年代から30年代にかけての、当時の国鉄のテーマは、列車の本数を増やすこと。経済の復興や国民生活の向上にしたがつて、鉄道の役割はどんどん大きくなりました。」

輸送力をアップするために、上野―宇都宮間が蒸気機関車から電車へ変わったのが、昭和33（1958）年4月です。これによってスピードアップ、効率的運用が可能になり、列車の本数も増えました」

宇都宮市は空襲により大きな被害を受けましたが、そこからの復興もめざましく、当時「奇跡の復興」と讃えられたのですが、鉄道が果たした役割が小さくなかったことは間違いありません。

昭和57（1982）年6月に、東北新

ことが決定しています。バッテリーで動く電車の導入は、全国で烏山線が最初です。1回の充電で走る距離と烏山線の長さがちょうど良いことや、現在ディーゼルを使っているので転換が容易なことなどが、導入の決め手になったそうです。導入されれば大きな話題になるでしょう。

「観光で言えば、来年の4〜6月にかけて、私どもは栃木県を重点地域として集客します。栃木県の魅力アップをぜひ行ないたい。宇都宮市はその中心的な役割を担うと思います」

宇都宮市自身の「観光力アップ」とともに、県内各地へのハブとしての役割も重要です。現在の栃木県内の観光地は、観光地同士の連携が弱いと、以前より指摘されています。そこを改善するきっかけになればと、櫻井駅長は考えています。

「私も栃木県出身で、今は小山市在住。栃木県や宇都宮市のいいところを、もつともっと宣伝して、よりすばらしい地域にするお手伝いをしていきたいと考えています」

鉄道が創る「宮」の未来 これからの鉄道の役割を、 駅長に聞く

JR Utsunomiya-Station



JR宇都宮駅長
櫻井 実氏
さくらい みつのる

昭和34年生まれ。昭和57年日本国有鉄道入社。昭和62年東日本旅客鉄道（株）入社。新橋駅副駅長、さいたま新都心駅長、上野駅地区指導センター所長などを歴任。平成24年7月より現職。

JR宇都宮駅改札口（在来線）



JR宇都宮駅在来線ホーム



JR Utsunomiya-Station



JR宇都宮駅舎

幹線が大宮―盛岡間で運行を始めたことは、宇都宮市にとっても大きなメリットをもたらしました。

昭和62（1987）年にJRが発足。「お客様の利便性から言えば、東北新幹線と湘南新宿ラインの運行開始が、大きなトピックでしょう。」

新幹線開通については、言うまでもありません。新幹線の登場で、栃木県は首都圏の通勤圏内になったと云って良いでしょう。

また湘南新宿ラインも、お客様の利便性を大きく向上させました。昭和63（1988）年に東北本線の池袋駅乗り入れが始まりましたが、現在のように宇都宮から新宿方面へ直通となったのは平成13（2001）年のダイヤ改正からです。乗り換え無しで新宿、渋谷、さらには横浜方面へ行けるメリットは大きく、お客様からも好評でした」



東武宇都宮駅
加藤 哲也 駅長

「東武宇都宮線沿線のポテンシャルは、まだまだ高くなります」

身近な沿線の足として

宇都宮南西部の住民にとって、東武宇都宮線はまさに「生活の足」であり、東京と直結する路線です。さらに日光・鬼怒川と栃木経由で行き来できる、重要な観光路線でもあります。身近な駅、身近な電車として市民を支える東武宇都宮線の姿を、加藤駅長にうかがいました。

誕生から開通80周年まで

東武鉄道宇都宮駅ができたのは、昭和6（1931）年のことです。

「8月11日に新栃木―東武宇都宮駅間が開通しました」

以来、80年以上にわたって、市民の足として活躍してきた東武電車と、東武宇都宮駅です。

東武宇都宮百貨店と駅が一体となったのは、昭和34（1959）年11月のことです。

今、宇都宮市民が当たり前のように見ている風景は、この時まででは無かったのです。

デパートの中に駅があるのは、最近では珍しくなくなりました。その先駆けといってもいいかも知れません。当時は百貨店の屋上に遊園地があるなど、宇都宮中心部の魅力を大きく高める役割も果たしました。

特徴は「地域密着型」

東武宇都宮線の特徴について、加藤駅長は「地域密着型」と表現します。

「私どもは、沿線の方々との交流を大切に、より深めていきたいと考えています。

地域の足としての役割は、大きなものです。同時に、東武鉄道は栃木の観光においても、さまざまな役割を果たしています。

日光や鬼怒川方面へ首都圏からお客様を運ぶ重要な路線を運営しています。また福島県と栃木県にまたがる第三セクターの野岩鉄道についても、私どもが主要株主の1社として協力しています」

観光面から言えば、昭和56（1981）年の東武動物公園開業（埼玉県）や、平成5（1993）年の東武ワールドスクウェア開業（日光市）などがエポックな出来事

信の場ですから、そういうところに地元情報を出していけば、利用客のメリットも大きいと思います。

また、例えば国谷駅周辺地域で毎年行なわれている桜祭りに参加してカクエキカクテルを提供するなど、実際のイベントでもご協力できることは積極的に行なっていくつもりです」

今後は、こうした地域との連携に力を入れていく他に、「宮コンや餃子、ジャズ、カクテルといった宇都宮を代表するキーワードとの連携は、ますます深めていきたいですね。毎年秋に開催されるミヤジャズインや餃子祭りの時期には、利用者数も15倍くらいに増えるのです。これをもっともっと増やしていきたい。来てくださる方が増えれば、宇都宮の魅力発信になるのですから、その一翼を担っていくつもりです」

その一方で、人と人のふれあいを忘れない駅運営も重視する加藤駅長です。

「本数が多くない線だからこそ、地域の利用客との一歩踏み込んだ交流も可能だと思えます。地域に愛される駅として、がんばっていききたいと思えます」

「東武宇都宮線沿線のポテンシャルは、まだまだ高くなる」と話す加藤駅長。そのために、地域の行事にもさまざまな形で協力しています。

「地域の方々、より踏み込んだ交流を」

「駅構内の掲示物も、地域のイベントのポスターは、できるだけ優先して貼るようにしています。駅構内は、貴重な情報発



首都圏の新名所 東京スカイツリー

グループ連携で手づくりPR

「スカイツリートレインで、カクテルや宇都宮の名物を提供し、観光客増加に結びつけるなど、さまざまなアプローチを企画しています」

「スカイツリートレインで、カクテルや宇都宮の名物を提供し、観光客増加に結びつけるなど、さまざまなアプローチを企画しています」

その一方で、加藤駅長は「手づくりの交流」も重視しています。

「平成23（2011）年に、東武宇都宮線開通80周年と、東武ホテルグランデ開業20周年を記念して『ミヤセン カクエキカクテル』というものを作りました。東武

鉄道が創る「宮」の未来 これからの鉄道の役割を、 駅長に聞く

TOBU Utsunomiya Station



東武宇都宮駅長
加藤 哲也氏

昭和39年生まれ。昭和60年東武鉄道入社。平成14年東武北千住駅首席助役、平成19年東武久喜駅駅長、平成21年鉄道事業本部営業部営業企画課主任などを歴任。平成23年4月より現職。

東武宇都宮駅改札口



東武宇都宮駅ホーム



TOBU Utsunomiya Station



東武宇都宮駅舎